

11月 20日 1984年

親愛なるローズマリー

此の手紙は私が日本で書き始め今日ハワイについてタイプしたものです。  
良ければ、複写して興味のある友人達にお送りいただいて結構です。

島野栄道の身上に関する情報を集めるための私の調査旅行は様々な都合により2度にわたり延期されましたが、12月17日土曜日やっと実現しました。以来我々は長期にわたり公案の復習研究会がせいなん(SANUN)禅堂でおこなわれたので、私にとって此れが手紙を書く最初の機会です。私が学んだのは以下のとおりです。

1. 臨済宗においては正式の伝法は4段階の過程を経なければなりません。
  - a. 伝法の証書を手渡されること
  - b. 儀式
  - c. 本家の寺に伝法の登録をすること
  - d. 本家の寺で伝法の披露を行なうこと、此の場合龍沢寺
2. 二人の僧がそうえん老師より伝法を授けられ、龍沢寺で臨済宗による登録、披露が行われました。この2人の僧は現在の龍沢寺住職のそうちゅう老師と藤森こうぜん老師です。
3. そうえん老師の葬式に島野栄道は龍沢寺の往時の僧たちの席を与えられ正式な法継者や他の老師方の席はあたえられなかった。聞くところによればこれは日本においては老師と見なされていないはっきりした証拠であるとのことであります。
4. 島野栄道はそうえん老師の遺骨の1部を頂きアメリカへ持ち帰りました。聞く所によれば、これは島野栄道に対する是認でも、彼の功績をたたえるものでもなく、そうえん老師自身の長年の大菩薩禅堂との関わりは老師にとって思いで深い大切な禅堂なので、遺骨をここにおさめたいとの希望のためだということです。
5. 島野栄道はそうえん老師の袈裟を要求したが退けられました。しかしそうえん老師の白い着物をアメリカへ持ち帰ったそうです。

という訳で島野栄道がそうえん老師より授けられた伝法は非公式、伝法の撤回も非公式です。龍沢寺においてそうえん老師によってなされた一切の言動も非公式というわけです。流言を実証するのですが非公式の伝法はニューヨークでも撤回が行われるべきでしょう。私はこの手紙では単刀直入の言明はしません。しかし私の得たすべての情報は絶対に信頼できる権威ある筋からのものです。これらの情報が貴女や我々の友人にとって役立つものでありますように。

愛と合掌  
ロバート エイトケン